

第5章 震災教訓の伝承 3.11 伝承・減災プロジェクト

第1節 3. 11 伝承・減災プロジェクト

第1項 背景

東日本大震災では、記憶の風化により明治・昭和の大津波で被災した地域でさえ再び被害にあった例が散見されているように、津波災害は発生頻度が希で世代交代を重ねるうちに防災意識が薄れることが指摘されている。

二度と同じ惨事を繰り返さないためにも、東日本大震災の経験を永く確実に伝承し、地域ぐるみの『避難行動』として代々受け継いで行く必要がある。

宮城県土木部では、平成23年度より「3.11 伝承・減災プロジェクト」を立ち上げ、被災事実を後世に伝承し、迅速な避難行動が県内に根付くようさまざまな試みに積極的に取り組んでいる。

第2項 プロジェクト概要

「3.11 伝承・減災プロジェクト」は、以下の3本柱で展開している。

- “記憶”より“記録”で『ながく』伝承
- かたりべの裾野を広げ『ひろく』伝承
- 防災文化を次世代へ『つなぐ』伝承

平成25年度からは官民協働で取り組む「伝承サポーター制度」を導入し、本プロジェクトの拡充を図っている。本プロジェクトでは、パネル展や報告会を開催するなど、県内のみならず全国へ向けても機会を捉えて発信している。

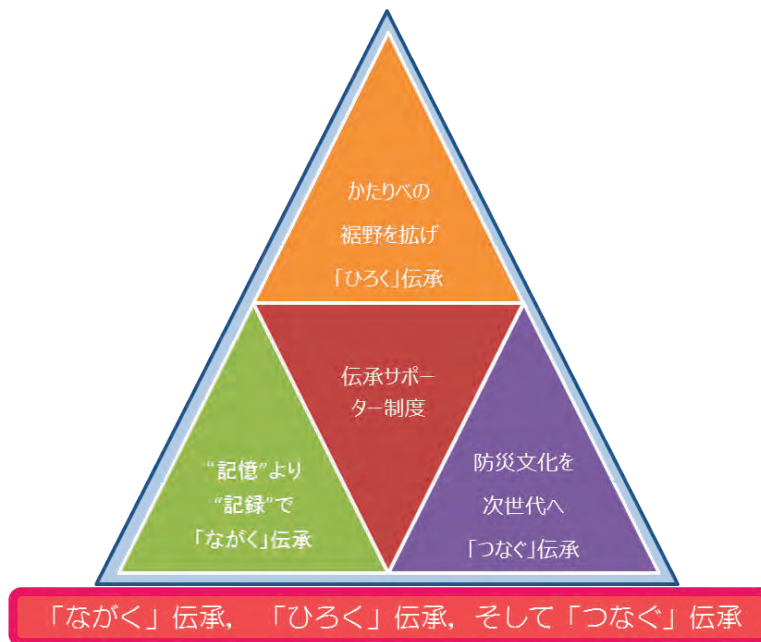


図 5-1 3.11 伝承・減災プロジェクト概念図

本プロジェクトの具体的なメニューは次のとおりである。

1. “記憶”より“記録”で「ながく」伝承 【現地・冊子・展示】

- (1) 津波浸水表示板設置
平成28年末時点188箇所、256枚を設置
- (2) 海岸防御施設及び減災施設築造に係る計画概要の現地表示
平成28年度から「東日本大震災伝承版」として石巻市長浜海岸に設置
- (3) 津波資料のアーカイブ化
東日本大震災に関する図書・映像の一元化、記録誌の毎年発刊
- (4) 震災遺構（公共土木施設）の保存
県庁県政広報室に常設展示
 - ・ 津波写真モニュメント設置
 - ・ 河川、海岸施設の工事履歴の現地表示

2. かたりべの裾野を拓げ「ひろく」伝承

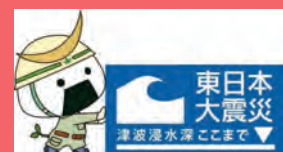
- (1) 津波防災シンポジウムの開催
平成18年度から毎年月の「みやぎ津波防災月間」に実施
- (2) 津波防災パネル展の開催
県政広報室、三陸自動車道春日PAに常設展示県内外のイベント等で開催
- (3) 宮城県外での報告会の開催
県外市町の建設技術協会等に対し東日本大震災の報告会を開催

3. 防災文化を次世代へ「つなぐ」伝承

- (1) 防災教育の取組
- (2) 防災出前講座の実施
平成28年度からみやぎ出前講座として小学生向け及び町内会向けを追加
 - ・ 波防災シンポジウムの開催（再掲）
 - ・ 津波資料のアーカイブ化（再掲）

4. 伝承サポーター制度

当プロジェクトに賛同し、伝承・減災を後押しして頂ける方々を広く募集し「伝承サポーター」として認定する制度。企業、個人を問わず伝承・減災を担う地域のサポーターの立場で活動していただく。



現在は、「自らが所有する建造物等に津波浸水表示板を設置していただける方」を伝承サポーターとして認定している。

1. “記憶”より“記録”で「ながく」伝承 【現地・冊子・映像・展示】

震災の記録を残し、後世に伝える表示、施設の保存を行っている。

(1) 津波浸水表示板の設置

記録、伝承、啓発、減災の効果を発することを目的として、道路や公園などの公共施設に東日本大震災の津波高を示した津波浸水表示板を設置している。当初は公共施設を中心に実施していたが、平成25年度からの「伝承サポーター制度」導入に伴い民間企業、町内会の集会所、個人宅等でも設置している。平成28年末までの津波浸水表示板の設置数は、公共・民間施設合わせて県内188箇所計256枚に達した。

実物大のハザードマップとして、地域住民の防災意識の啓発や地域事情に不慣れな観光客等への注意喚起を図り、避難行動のきっかけに結びつく取組を展開している。



図 5-2 津波浸水表示板（上：300×1,200 サイズ，下：300×600 サイズ）



図 5-3 津波浸水表示板の設置状況

（左：県道杉ヶ原増田線（名取市美田園地内），右：藤田公会堂（仙台市若林区荒井地内）

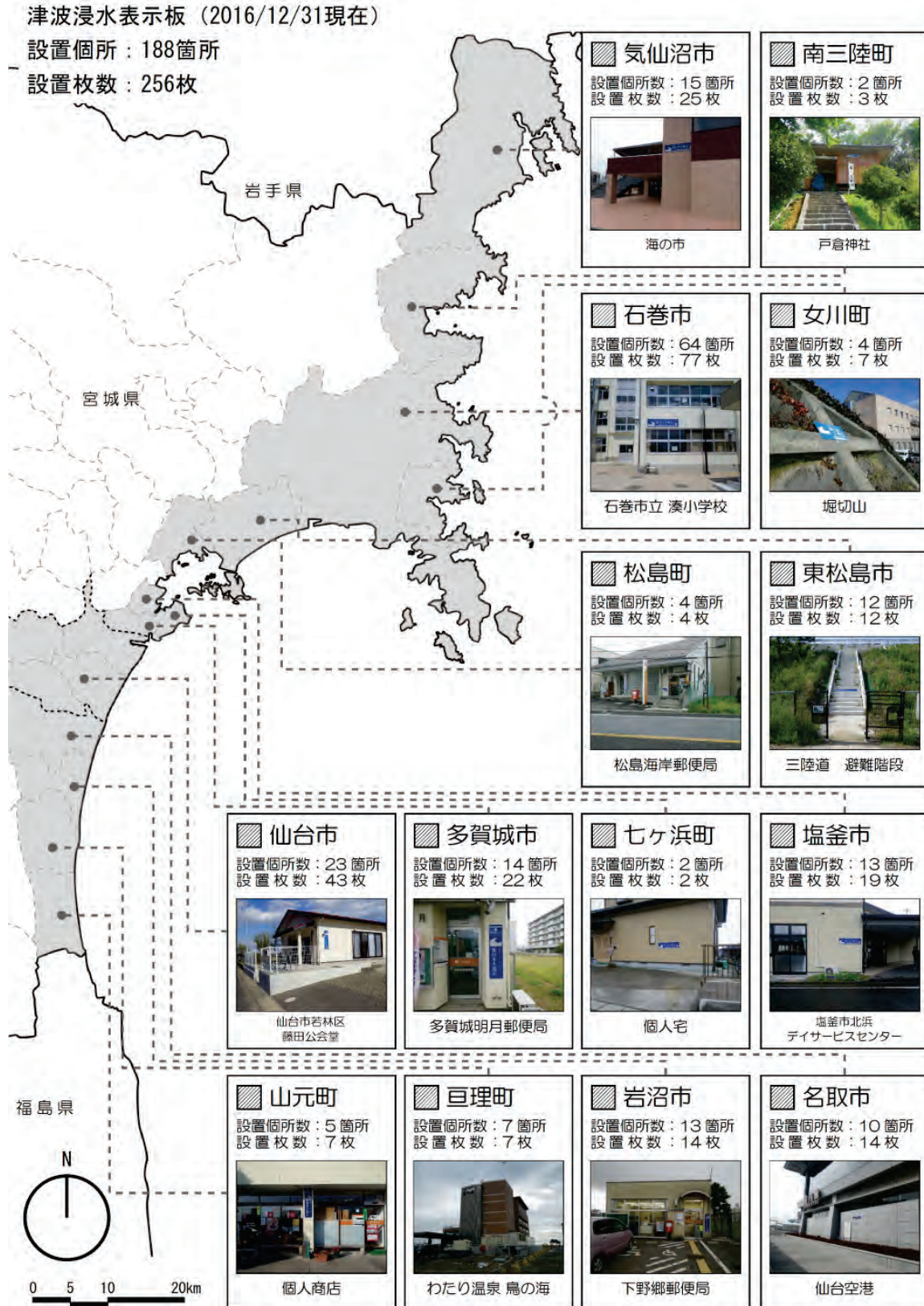


図 5-4 津波浸水表示板の市町村別設置状況 (平成 28 年 12 月末時点)

(2) 東日本大震災伝承板の設置

(沿岸防御施設及び減災施設築造に関する計画概要の現地表示)

河川、海岸堤防のL1津波（レベル1津波：発生頻度の高い津波）の高さの考えなどを現地に表示する。また、東日本大震災による当該地域の被害状況や防災道路、住宅の内陸移転、津波避難ビルなどの復興まちづくり計画も併せて紹介し、訪れた多くの人に対して多重型の津波防災対策について広く周知する。

完成した施設から順次設置する方針としており、平成28年度は長浜海岸（石巻市渡波地内）に設置した。



3.11 東日本大震災伝承板 - 長浜海岸防潮堤 -

平成23年3月11日に発生した巨大地震は、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の我が国の観測史上最大規模となり、限内で震度7から震度9級の非常に強い揺れを観測した。その後、三陸沿岸で高さ30m、仙台湾沿岸でも高さ10mを超える大津波が発生し、県内では、1万人を超える犠牲者・人命が奪われ、県民及び県民の財産に甚大な被害をもたらした。私たちは、あの日起きた出来事が、「いつかどこかであったこと」ではなく「いつでも起こりうること」であると、それぞれの胸にしっかりと刻み、出来るかぎりの備えを講じていかなければなりません。

宮城県では、この震災の教訓を継承化させることにより「津波に強いまちづくり」を推進していくこと、また、今後発生しうる災害などに対する迅速な避難行動の啓発を目的としてこの伝承板を設置しています。

宮城県 土木部 3.11伝承-減災プロジェクト

東日本大震災
平成23年3月11日14時46分頃に発生した平成23年(2011)東北地方太平洋沖地震は、東北から北関東の広範囲で強い揺れを観測し、北関東から中部圏にかけての太平洋沿岸を中心に非常に大きな津波が発生しました。県内での最大津波高は、東三陸町(志津川)で19.19m、最大遡上高は、安田町(下ノ下)で13.7mに達し、沿岸地域の壊滅的な被害をもたらしました。この震災は、明治以降では関東大震災(大正12年)、戦後三陸地震津波(明治29年)に次ぐ極めて深刻な被害となり、政府はこの地震による犠牲者の名を「東日本大震災」としました。

被災前(平成13年) **震災後(平成23年)**

被害状況
この津波による浸水面積は、県では全体の4.5%にあたる327km²(国土総面積約10万km²)に達し、石巻市では市域の約10%にあたる、市域内全域を占む沿岸部の約3割に及びました。これにより多くの人的被害が発生したほか、沿岸の建造物や家屋の倒壊、道路、農業、製造業などの産業基盤の喪失、道路や鉄道などの交通網の分断など甚大な被害となりました。

復興まちづくり計画(平成27年時点)

石巻市長浜海岸周辺
石巻市は、人口約16万人、平成27年(2015)現在、県を有する県庁2郡市の中で、海側から遠く離れた地域、乃石巻地区一帯は、古くから水産業を中心とする漁業が盛んな地域であり、震災には多くの被害が及びました。この教訓を踏まえ、震災では多くの漁業の復興と併せ、住宅の内陸移転、防壁、高層土造建築、防災用材料・設備、津波避難ビル等の建設など、災害に強いまちづくりを進めています。

長浜海岸防潮堤は、石巻市に属した震災の美しい中津で賑わいを果たして、海岸沿いの観光地、今更けにふるさとから生命や財産を守るために、新たな津波対策として高さ19.72m、延長970mを建設しています。

新たな津波対策
過去に起きた主な津波

- ・L1津波とは比較的高発生頻度の高い津波をいいます
明治三陸地震津波や大正三陸津波などの数十年から百数十年に一度程度の津波に対して海岸防護により市街地を防護します。
- ・L2津波とは最大クラスの津波をいいます
東日本大震災や東日本大震災などの最大クラスの津波に対する完全な防護が期待できるため、避難準備開始として、高層土造建築や防壁、屋台への避難誘導や避難ビルの確保など、トータルで安全性を確保する「多重防壁」により災害を最小限に抑える取組を行います。

「まずにげよう
たいせつなのは
そのいのち」
出典：平成28年度石巻市防災教育(各関係) 復興啓発より

図 5-5 東日本大震災伝承板（長浜海岸設置）

(3) 津波資料のアーカイブ化

東日本大震災に関する図書、映像等を一元的に収集・管理し、今後の防災活動等へ活用する。河川、海岸堤防等の施設復旧に関して計画、断面決定に関するプロセスを一元的に保管管理する事により、今後の震災発生時の早期復旧計画の策定に活用していく。

また、宮城県土木部でも独自に東日本大震災の記録誌を毎年発刊し、震災の教訓や活動を記録に残し伝承に努めている。

■東日本大震災に関する図書



図 5-6 資料の収集・管理状況

■東日本大震災に関する図書

※宮城県HP参照 <http://www.pref.miyagi.jp/site/ej-earthquake/indexjisinikrokusi.html>

第1章

「災害に強いまちづくり
宮城モデル」の構築

第2章

安心安全なまちづくり

第3章

「港湾」「道路」等
災害に強い「道路」

第4章

早期復旧と復興の
加速化に向けた取組

第5章

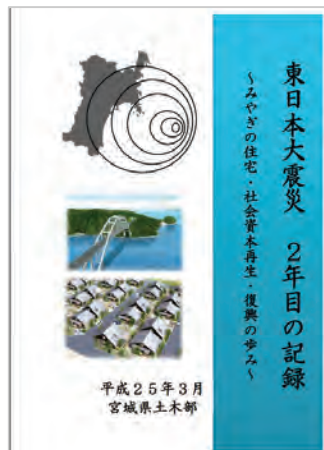
震災教訓の伝承



復興元年 半年の記録



1年目の記録



2年目の記録



3年目の記録



4年目の記録



5年目の記録

■復興まちづくりの記録

※宮城県HP参照 <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/fukumachi/ayumi.html>

宮城県復興まちづくりのあゆみ

～集中復興期間の総括及び

復興・創生期間に向けて～



■災害公営住宅整備の記録

※宮城県HP参照 <http://www.pref.miyagi.jp/site/ej-earthquake/seibinokiroku.html>

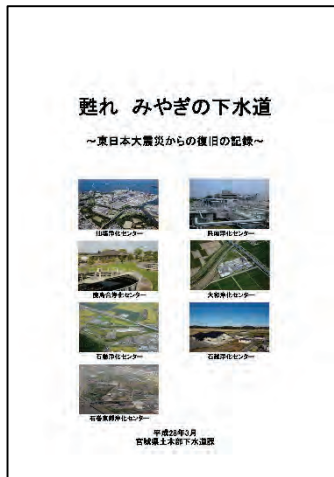
東日本大震災からの復興
災害公営住宅整備の記録
～5年の歩み～



■下水道施設復旧の記録

※宮城県HP参照 <http://www.pref.miyagi.jp/site/ej-earthquake/75-23-3-11jisin-yomigaere.html>

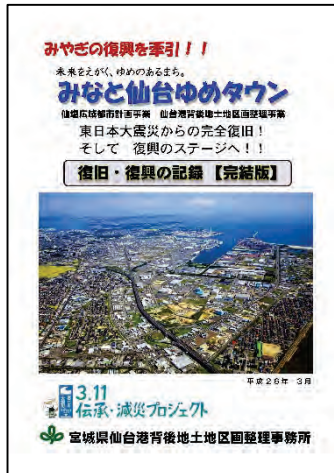
蘇れ 宮城の下水道
～東日本大震災からの復旧の記録～



■仙台港背後地土地区画整理事業の復旧・復興の記録

※宮城県HP参照 <http://www.pref.miyagi.jp/site/sd-haigo-subsite/kirokushi.html>

みなと仙台ゆめタウン
復旧・復興の記録



■職員の証言記録

※宮城県HP参照 <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/jigyokanri/syokuinsyouden.html>

東日本大震災 職員の証言（想い）
～そのとき それから これから あの日を忘れない～



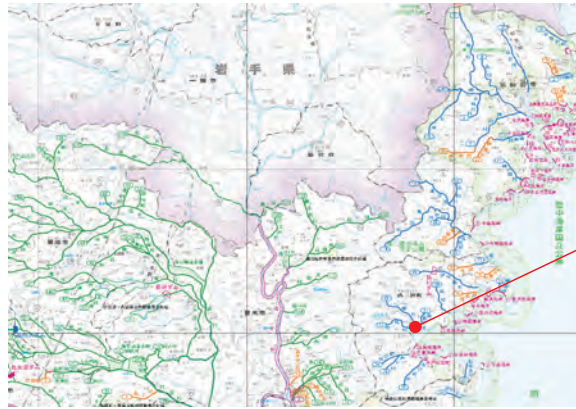
■公共土木施設の被災映像

表 5-1 箇所リスト（平成29年3月時点）

番号	事務所名	公共土木施設	撮影状況	備考
1	防災砂防課	坂元川防潮水門	撮影済	
2	防災砂防課	南貞山運河	撮影済	
3	防災砂防課	志津川登米線 朝日館壱番橋	撮影済	
4	防災砂防課	竹川原橋（南三陸町道）	撮影済	
5	防災砂防課	伊里前防潮水門	撮影済	
6	防災砂防課	水戸辺川防潮水門	撮影済	
7	防災砂防課	八幡川防潮水門	撮影済	
8	防災砂防課	水尻川防潮水門	撮影済	
9	防災砂防課	只越川防潮水門	撮影済	
10	防災砂防課	折立川防潮水門	撮影済	
11	防災砂防課	新井田川防潮水門	撮影済	
12	防災砂防課	防潮堤（石巻市雄勝）	撮影済	
13	河川課	只越川防潮水門	撮影済	UAV（ドローン）撮影
14	河川課	外尾川防潮水門	撮影済	UAV（ドローン）撮影
15	河川課	杉ノ下防潮水門	撮影済	UAV（ドローン）撮影
16	河川課	大谷川防潮水門	撮影済	UAV（ドローン）撮影
17	河川課	伊里前防潮水門	撮影済	UAV（ドローン）撮影
18	河川課	蕨野川防潮水門	撮影済	UAV（ドローン）撮影
19	河川課	長清水川防潮水門	撮影済	UAV（ドローン）撮影
20	河川課	新井田川防潮水門	撮影済	UAV（ドローン）撮影
21	河川課	水尻川防潮水門	撮影済	UAV（ドローン）撮影
22	河川課	八幡川防潮水門	撮影済	UAV（ドローン）撮影
23	河川課	水戸辺川防潮水門	撮影済	UAV（ドローン）撮影
24	河川課	桜川防潮水門	撮影済	UAV（ドローン）撮影
25	河川課	坂元川防潮水門	撮影済	UAV（ドローン）撮影
26	気仙沼土木	八幡川防潮水門	撮影済	
27	気仙沼土木	新井田川防潮水門	撮影済	
28	気仙沼土木	水尻川防潮水門	撮影済	

例) 被災映像 (No.22 八幡川防潮水門)

22. 八幡川防潮水門



二級河川
八幡川水系八幡川



(4) 震災遺構（公共土木施設）の保存

小型の震災遺物は、宮城県庁県政広報展示室に展示しており、県民や全国各地から訪れた方々に地震動や津波の脅威、減災の必要性等を伝承している。

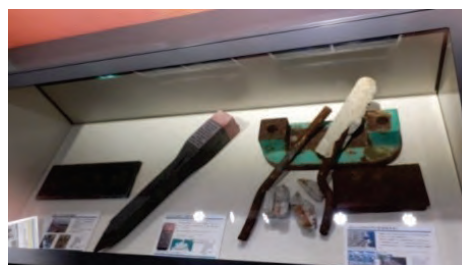


図 5-7 小型震災遺物の展示状況（宮城県庁県政広報展示室）


比較的大型の震災遺物は、今後の施設整備に対する教訓とするとともに、地震動や津波の力の巨大さを後世に伝えることを目的として保存している。



表 5-2 保存リスト

事務所名	収 集 物	現在の状態	保存方法
防災砂防課	県南浄化センター 時計	保存済	全部
復興まちづくり推進室	境界杭	保存済	全部
仙台	操作室の扉 (坂元川防潮水門)	保存済	一部
仙台	支承 (坂元川防潮水門)	保存済	一部
仙台	高浦橋 橋銘板	保存済	全部
仙台	防護柵 (塩釜巨理線 多賀城市町前)	保存済	一部
仙台	ガードパイプ (塩釜七ヶ浜多賀城線)	保存済	一部
東部	矢本海浜緑地遊具 (すべり台, 擬木)	保存済	一部
東部	橋梁トラス (新北上大橋)	保存済	一部
東部	定川大橋 橋銘板	保存済	全部
東部	高欄 (石巻工業港線 定川大橋)	保存済	一部
気仙沼	タラップ (水尻川防潮水門)	保存済	一部
気仙沼	手摺 (新井田川防潮水門)	保存済	一部
気仙沼	タラップ (八幡川防潮水門)	保存済	一部
気仙沼	分電盤 (八幡川防潮水門)	保存済	一部
気仙沼	タラップ (伊里前防潮水門)	保存済	一部
気仙沼	銘板 (伊里前防潮水門)	保存済	一部
気仙沼	避難昇降階段 (気仙沼港 気仙沼市朝日町)	保存済	一部
気仙沼	高欄 (志津川登米線 朝日館壱番橋)	保存済	一部
気仙沼	照明灯支柱 (国道346号 気仙沼市松崎片浜)	保存済	一部
気仙沼	案内標識支柱 (気仙沼市魚町)	保存済	一部
気仙沼	案内標識板・支柱 (気仙沼唐桑線 気仙沼市本吉町岳の下)	保存済	全部
仙台塩釜港湾	案内標識柱基礎	保存済	一部

例) 震災遺構 (土木構造物) (八幡川防潮水門 タラップ, 銘板)

震災遺構NO.	7-C-e	収集年月日	平成27年10月2日
名称	八幡川防潮水門 タラップ, 銘板		
収集場所概要	(住所等を記載) 八幡川 南三陸町志津川字南町		
大きさ (W×D×H)(mm)	1900 × 900 × 1000 W D H	保存場所	●東部下水道事務所倉庫 ○その他 ()

位置図	評価点数	
	被災前・後の比較ができる	1
	被災状況の説明のしやすさ	0
	損傷の激しさ	2
	土木的価値の高さ	0
	ランドマーク性	1
	エピソード性	1
	保存のしやすさ	1
	総合点	6

遺構写真(可能であれば被災前・被災後を比較できるよう貼付)	
 <p>被災後(撮影日: 平成27年 6月)</p>	 <p>被災後(撮影日: 平成27年 10月)</p>

その他特記事項(取り扱いについて注意事項等あれば記入)

2. かたりべの裾野を拡げ「ひろく」伝承

震災の経験を教訓に、防災意識を高める情報を広く提供している。

(1) 津波防災シンポジウムの開催

県では、昭和35年にチリ地震津波が襲った毎年5月を、「みやぎ津波防災月間」と定め、そのメインイベントとして、県民を対象に津波防災意識の向上を目的に、平成18年度から沿岸市町と共催しており、毎年テーマを設定しそれに沿った基調講演や沿岸市町及び市民団体等からの情報提供を行い、「ひろく」伝承する取組を継続している。

東日本大震災以降は、震災の経験を踏まえ津波災害から生き延びる知恵を身に付けることに重み置きながら津波被害の軽減や津波防災意識の向上を図るため、地域と協働で様々な取組を行っている。

表 5-3 各年度の津波防災シンポジウム開催状況

年度	開催地	テーマ
H18	塩竈市	～いま！地域で具体的な取り組みを始めよう！～
H19	気仙沼市	～命を守る防災教育, 未来の防災戦士たち～
H20	松島町	観光地における地震・津波対策について～いつ来ても安心だね！まつしま～
H21	仙台市	津波防災の観点からのまちづくり～津波はまちを襲う～
H22	南三陸町	～チリ地震津波から50年, そして今年～
H24	仙台市	～歴史が伝える津波, 歴史にしていづ津波～
H25	仙台市	～地域で育てる津波防災文化～
H26	岩沼市	実践的防災のススメ～津波から生き残る～
H27	山元町	大震災から学ぶ教訓～後世への震災伝承～
H28	東松島市	語り部が考える”伝承”の在り方～東日本大震災から5年, 今, これから, 何を語るか～

※平成23年度は東日本大震災の影響により中止

■これまでの津波防災シンポジウム開催実績

平成28年（開催地：東松島市）

日時：平成28年5月14日（土）午後1時から午後4時まで

場所：東松島市コミュニティセンター

テーマ：語り部が考える”伝承”の在り方

～東日本大震災から5年、今、これから、何を語るか～

基調講演：

○災害伝承と災害文化

東京大学大学院情報学環

総合防災情報研究センター

特任助教

定池 祐季 氏

語り部講演：

○「濱口梧陵と稲むらの火」～梧陵の心伝えます～

濱口梧陵語り部

和歌山県広川町稲むらの火の館

元館長

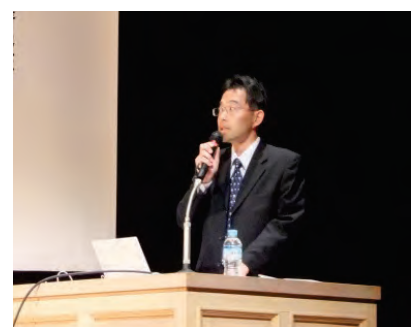
熊野 享 氏

情報提供：

○防災教育について～災害時にも活躍できる生徒の育成～

矢本第二中学校 防災主管教諭 鈴木 国也 氏

参加者：約 160 名



平成 27 年（開催地：山元町）

日時：平成 27 年 5 月 30 日（土）午後 1 時から午後 4 時まで

場所：山元町中央公民館 大ホール

テーマ：大震災から学ぶ教訓～後世への震災伝承～

基調講演：

- 大震災の教訓 ー学ぶ,生かす, 伝える
 - 公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構
副理事長兼研究調査本部長
兵庫県立大防災教育研究センター センター長
神戸大学 名誉教授 室崎 益輝 氏

情報提供：

- 大震災の教訓～中浜小・震災遺構の検討を通して～
山元町教育委員会 教育長 森 憲一 氏
- 巨大津波を語り継ぐ
やまもと民話の会 庄司 アイ 氏

参加者：約 240 名

津波防災シンポジウム
大震災から学ぶ教訓～後世への震災伝承～
日時：平成27年5月30日(土)
13:00から16:00
場所：山元町中央公民館大ホール

■ プログラム ■

- 13:00 基調講演
「大震災の教訓ー学ぶ,生かす, 伝える」
公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構
副理事長兼研究調査本部長
兵庫県立大学防災教育研究センターセンター長
神戸大学 名誉教授 室崎 益輝 氏
- 14:30 休憩
- 14:40 情報提供
「大震災の教訓と伝承
～中浜小・震災遺構の検討を通して～」
山元町教育委員会 教育長 森 憲一 氏
- 15:10 情報提供
「巨大津波を語り継ぐ」
やまもと民話の会 庄司 アイ 氏
- 15:40 伝承サポーター認定式
- 16:00 閉会

主催：宮城県・山元町



平成 26 年（開催地：岩沼市）

日時：平成 26 年 5 月 17 日（土）午後 1 時から午後 5 時まで

場所：岩沼市民会館 中ホール

テーマ：実践的防災のススメ～津波から生き残る～

基調講演：

- 千年先を見据えた岩沼のまちづくり」
岩沼市長 井口経明 氏
- 災害と向き合う2つのキーワード：
「多重防御」と「実践的防災」の意味とその実際
東北大学災害科学国際研究所 助教 佐藤翔輔 氏

情報提供：

- 減災都市 多賀城の実現へ向けて
～「みんなの防災手帳」と「たがじょう見聞憶」の活用～
多賀城市 総務部 交通防災課 主査 豊嶋茂一 氏

参加者：約 180 名

津波防災シンポジウム
実践的防災のススメ～津波から生き残る～
日時：平成26年5月17日(土)
13:00から17:00
場所：岩沼市民会館 中ホール
入場無料：事前申込(要面参照)
当日は駐車場限りがございますので、公共交通機関をご利用ください。

■ プログラム ■

- ▶基調講演
○千年先を見据えた岩沼のまちづくり
岩沼市長 井口経明 氏
- 災害と向き合う2つのキーワード：
「多重防御」と「実践的防災」の意味とその実際
東北大学災害科学国際研究所 助教 佐藤翔輔 氏
- ▶情報提供
○減災都市 多賀城の実現へ向けて
～「みんなの防災手帳」と「たがじょう見聞憶」の活用～
多賀城市 総務部 交通防災課 主査 豊嶋茂一 氏
- ▶同時開催
○伝承サポーター認定式 ○3.11 復旧・復興パネル展

お問い合わせ・参加申込先：
宮城県 土佐市 防災情報課 防災企画課
TEL: 022-211-3175 FAX: 022-211-3193 E-mail: hwan-ki@pref.miyagi.jp
申し込み締切期：5月14日(水)
申し込みは先着順となります。定数に達し次第、受付を終了させていただきます。

主催：宮城県・岩沼市



平成 25 年（開催地：仙台市）

日時：平成 25 年 5 月 25 日（土）午後 1 時から午後 4 時まで

場所：宮城県庁 2 階

テーマ：～地域で育てる津波防災文化～

基調講演：

「3.11 東日本大震災の教訓～海と共存する文化を地域に築く」

群馬大学広域首都圏防災研究センター長 片田敏孝 氏

報告：

「みやぎの防災教育」

宮城県 教育庁 スポーツ健康課 身崎

「3.11 伝承・減災プロジェクトについて」

土木部 防災砂防課 角田

参加者：200 名



平成 24 年（開催地：仙台市）

日時：平成 24 年 5 月 26 日（土）午後 1 時から午後 4 時まで

場所：宮城県庁 2 階

テーマ：～歴史が伝える津波，歴史にしていづく津波～

基調講演：

「2011 年東北地方太平洋沖地震津波 の被害と教訓」

東北大学 災害科学国際研究所 教授 越村 俊一 氏

「地質学が伝える 先史・歴史時代の津波と

2011 年東北地方太平洋沖地震津波」

千葉工業大学 惑星探査研究センター上席研究員

後藤 和久 氏

報告：

「東日本大震災における県の災害対応とその検証」

宮城県 総務部 危機対策課 菅原

「今後の津波防災対策」

土木部 防災砂防課 佐藤

参加者：250 名



平成 22 年（開催地：南三陸町）

日時：平成 22 年 5 月 23 日（日） 正午～午後 3 時 30 分

場所：南三陸町ベイサイドアリーナ交流ホール

テーマ：～チリ地震津波から 50 年，そして今年～

基調講演：

「チリ地震津波などの被災状況と津波に対する備え」

東北大学大学院工学研究科教授 今村文彦

パネルディスカッション：テーマ「いざというとき，どう行動しますか」

コーディネーター

東北大学大学院工学研究科教授 今村 文彦

パネリスト

仙台管区気象台技術部長 橋本 徹夫

東北大学大学院情報工学研究科准教授 邑本 俊亮

シルバー人材センター理事長，

元志津川町教育長 勝倉 彌司夫

南三陸町交通安全母の会会長 菅原 咲枝

南三陸町婦人防火クラブ連合会会長 三浦 とみ子

参加者：約 200 名

平成 21 年（開催地：仙台市）

日時：平成 21 年 5 月 30 日（土） 午後 1 時～4 時

場所：宮城県庁 2 階講堂

テーマ：津波防災の観点からのまちづくり～津波はまちを襲う～

基調講演：

「津波防災の観点からのまちづくり」について

日本大学大学院総合科学研究科 首藤伸夫教授

発表：

「津波に強いまちづくり」について

気仙沼土木事務所 河川班 加茂謙一

「仙台湾海岸林における地域の取り組み」について

農林水産部 森林整備課 八木智義

「仙台市における地域の取り組み」について

仙台市連合町内会会長

副会長 片桐睦男氏

参加者：約 250 名

津波防災シンポジウム
～チリ地震津波から50年，そして今年～

今年は昭和35年のチリ地震津波から50年目を迎えます。本年2月28日には再びチリで巨大地震が発生し大津波警報が発令され、幸いにして人的被害はありませんでしたが、高層施設などが大きな被害を受けました。さらに、宮城県沖地震は「いつきてもおかしくない」状況にあり、地震に伴う津波も懸念されています。

このような中、チリ地震津波での死者・行方不明者が41人にも達した南三陸町を会場として、津波シンポジウムを開催し、種々な視点から津波と人の行動や、地域住民がいざというときに取るべき行動や津波に対する心構えなどについてともに考えます。みなさまの参加をお待ちしています。

日時 平成22年5月23日(日) 12時～15時30分
場所 南三陸町ベイサイドアリーナ 交流ホール

内容

- パネル展示の部**
津波被害の実態、資料や、防災に関するパネル等の資料を展示するとともに、担当職員が解説します
- シンポジウムの部**
基調講演 「チリ地震津波などの被災状況と津波に対する備え」
東北大学大学院工学研究科 教授 今村 文彦
- パネルディスカッション**
テーマ 「いざというとき、どう行動しますか」

コーディネーター	東北大学大学院工学研究科教授 今村 文彦
パネリスト	仙台管区気象台技術部長 橋本 徹夫
	東北大学大学院情報工学研究科准教授 邑本 俊亮
	シルバー人材センター理事長、元志津川町教育長 勝倉 彌司夫
	南三陸町交通安全母の会会長 菅原 咲枝
南三陸町婦人防火クラブ連合会会長	三浦 とみ子



平成21年度 津波防災シンポジウム
津波防災の観点からのまちづくり
～津波はまちを襲う～

近い将来高い確率で発生が予想されている宮城県沖地震の発生に備え、宮城県では様々な地震・津波防災対策を実施しております。特に津波被害の軽減については、「防災意識」の高さと大きな関係があるといわれています。

本シンポジウムは、津波防災分野で世界的に活躍されている日本大学大学院の首藤教授による講演と、宮城県や仙台市の取り組みに関する発表等を通じて、津波防災について考えたいものです。

■日 時	平成21年5月30日(土) 13:00から16:00 (12:00開場)
■会 場	宮城県庁 2階講堂 【定員200名】 (当日は参加者数、定員の半額程度で出席下さい。定員が予想されますので、公共交通機関の利用による会場へのアクセスが困難になります。)
■内 容	13:00～13:05 開場 13:05～13:10 事務総長 13:10～14:30 講演「津波防災の観点からのまちづくりについて」 日本大学大学院 首藤伸夫教授 14:30～14:40 質疑応答 14:40～15:10 発表「仙台湾に津波防災の取り組みについて」 15:10～15:30 発表「仙台市における津波防災対策について」 15:30～15:50 発表「仙台市における地域の取り組みについて」 15:50 閉会
■主 催	宮城県・仙台市
■申し込み	5月22日(金)まで、電話で仙台市建設局百年の杜推進部河川課・震災防災対策課へお申し込みください。 仙台市百年の杜推進部河川課 022-214-9826・震災防災対策課 022-211-3175



平成20年（開催地：松島町）

日時：5月17日(土)午後1時～4時

場所：松島町中央公民館

テーマ：観光地における地震・津波対策について～いつ来ても安心だね！まつしま～

【第1部 協定調印式】

観光業界との協定調印式

【第2部 シンポジウム】

発表：「日本三景松島における

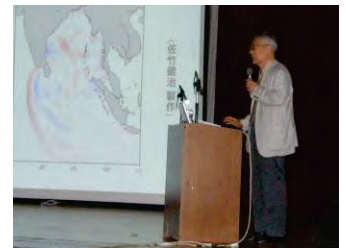
地震・津波対策の 取り組みについて」

松島観光協会

講演：「観光地における津波対策について」

日本大学大学院 首藤伸夫教授

参加者：約 220 名



平成19年（開催地：気仙沼市）

日時：平成19年5月26日(土) 午後1時から午後4時まで

場所：気仙沼中央公民館

テーマ：～ 命を守る防災教育、未来の防災戦士たち ～

基調講演：「過去の津波災害からの教訓に学ぶ」

東北大学 大学院工学研究科 教授 今村文彦

防災教育の取り組み：気仙沼市立階上中学校

事例報告：

- 1) 浦島小学校：防災キャンプ、津波避難訓練
- 2) 面瀬中学校：未来都市コンテスト
- 3) 中井小学校：ぼうさい探検隊、防災マップ

紹介：

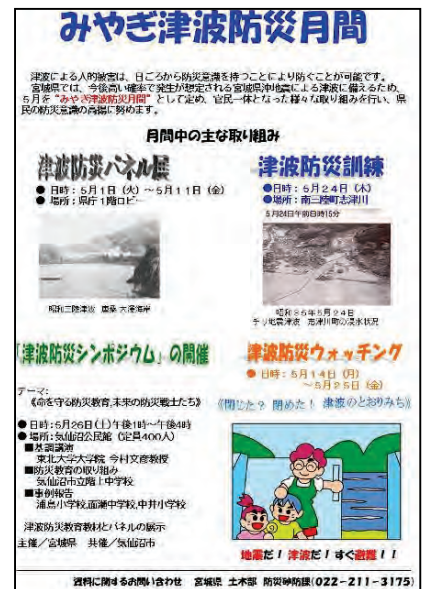
平成19年度防災マップコンテストの紹介と募集について

緊急地震速報の利用に当たって

仙台管区気象台

同時開催：津波防災パネル・防災教材の展示

参加数：320 名



平成 18 年（開催地：塩竈市）

日時：平成 18 年 5 月 27 日（土）午後 1 時～ 4 時

場所：塩竈市公民館

テーマ：～いま！地域で具体的な取り組みを始めよう！～

基調講演：

「津波災害から生き延びるために」

東北大学大学院工学研究科 越村 俊一 助教授

発表：津波防災教育の取り組み 南三陸町立伊里前小学校

津波体験者のお話 塩竈市 吉田 幸治 氏

「東北版稲むらの火」紙芝居 損保ジャパン東北本部 C S R 活動

紹介：防災マップコンテストの紹介

東北大学、塩竈市舟入二丁目東町内会

同時開催：企画展（津波防災パネルの展示）

津波被害の状況、中央防災会議における被害想定、

志津川での取り組み

避難誘導標識の展示、

塩竈市の自主防災組織が作成の防災マップの展示

玉川中学校生徒による木造住宅耐震診断への取り組み

参加者：240 名

5月は「みやぎ津波防災月間」です！

津波防災シンポジウム

～いま！地域で具体的な取り組みを始めよう！～

津波による人的被害は、目撃から防災意識を醸成することにより防ぐことが可能です。宮城県では、今後高い確率で発生が想定される宮城県沖地震による津波に備えるため、5月を「みやぎ津波防災月間」として定め、宮県一帯とつながり様々な取り組みを行い、県民の防災意識の高揚に努めます。

「津波防災シンポジウム」スケジュール

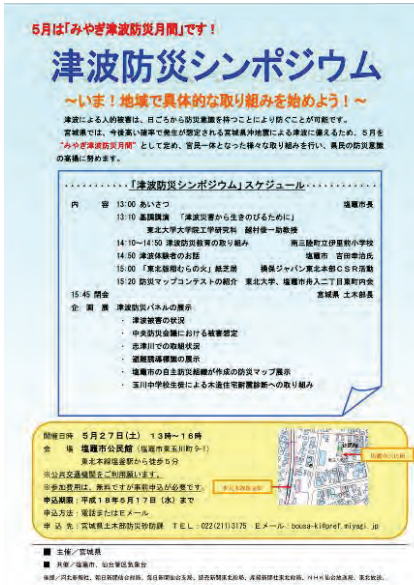
内 容	13:00 あいさつ	塩竈市長
	13:10 基調講演 「津波災害から生き延びるために」	東北大学大学院工学研究科 越村俊一助教授
	14:10～14:20 津波防災教育の取り組み紹介	南三陸町立伊里前小学校
	14:20 津波体験者のお話	塩竈市 吉田幸治氏
	15:00 「東北版稲むらの火」紙芝居	損保ジャパン東北本部 C S R 活動
	15:20 防災マップコンテストの紹介	東北大学、塩竈市舟入二丁目東町内会
		宮城県 土木部長
15:45 閉会		

主 賓 津波被害パネルの展示
 ・津波被害の状況
 ・中央防災会議における被害想定
 ・志津川での取組状況
 避難誘導標識の展示
 ・塩竈市の自主防災組織が作成の防災マップ展示
 ・玉川中学校生徒による木造住宅耐震診断への取り組み

開催日時 5月27日(土) 13時～16時
 会 場 塩竈市公民館(塩竈市塩竈町5-1)
 東北本庁舎裏から徒歩5分

※公共交通機関をご利用ください。
 ※参加費はなし。無料ですが参加申込が必要です。
 ※申込期間：平成18年5月17日(水)まで
 申込方法：電話またはEメール
 申込先：宮城県土木部防災等対策課 TEL:022(21)3175 Eメール:booka-k@pref.miyagi.jp

主 幹/宮城県
 主 幹/塩竈市：塩竈市防災係
 主催/協賛関係：国土交通省東北支庁、宮城県防災推進課、東北大学災害防衛研究所、NPO法人東北防災センター、東北地区防災センター、日本赤十字社、塩竈市公民館、塩竈市青少年センター、宮城県危機管理センター




(2) 津波防災パネル展の開催

防災意識の向上及び東日本大震災からの復旧・復興状況を発信している。宮城県庁県政広報展示室や三陸自動車道春日 PA の常設展示をはじめ、県内のみならず全国の各種団体の主催イベント等で広く開催を行っている。



図 5-8 津波防災パネル展開催状況（左：三陸自動車道春日 PA，右：静岡県富士宮市役所）



図 5-9 津波防災パネル展開催状況（左：東松島市，右：土木学会全国大会（仙台駅））

(3) 県外での報告会の開催

県外の各種団体等に対し、被害の状況や初動対応、復旧・復興に向けた取組等を報告している。



図 5-10 全日本建設技術協会での報告状況（左：静岡県富士宮市，右：滋賀県草津市）

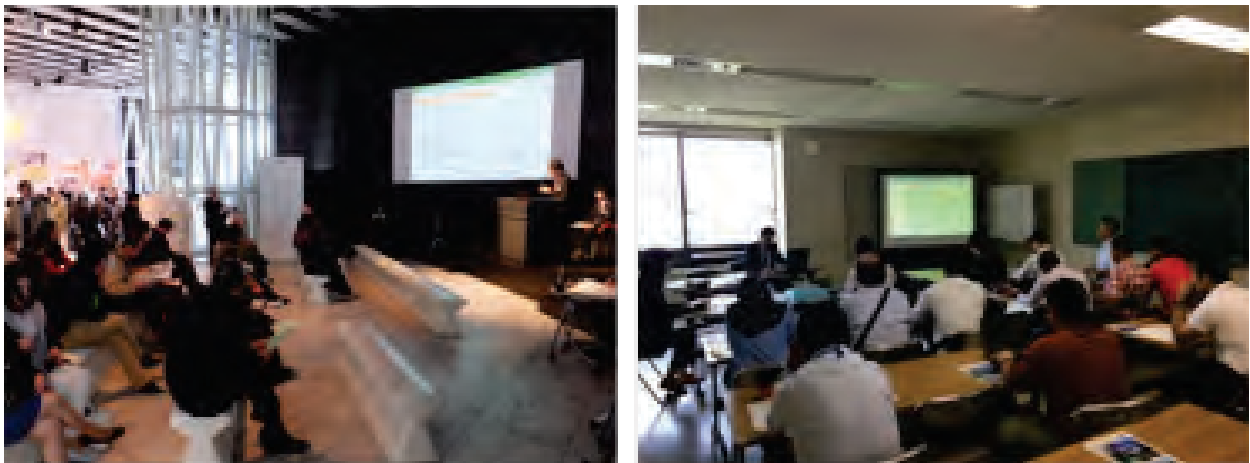


図 5-11 県外での報告会（左：第3回国連防災世界会議（防災砂防課），右：JICA 視察研修（復興まちづくり推進室））

第1章

「災害に強いまちづくり
宮城モデル」の構築

第2章

安心安全なまちづくり

第3章

災害に強い「道路」・
「港湾」・「空港」等

第4章

早期復旧と復興の
加速化に向けた取組

第5章

震災教訓の伝承

3. 防災文化を次世代へ「つなぐ」伝承

宮城県土木部では東日本大震災以前から小学校等への出前講座の実施など、津波に関する防災教育に力を入れている。

(1) 防災教育の取組

毎年3月の「みやぎ鎮魂の日」、5月の「みやぎ津波防災月間」、11月の「世界津波の日」などに合わせ津波防災教育を積極的に実施する。また、東日本大震災を踏まえた津波防災教育グッズの再整備及び充実を図っている。

(2) 防災教育の出前講座の実施

今後発生するであろう災害から身を守り被災を軽減させるため、出前講座などで東日本大震災を踏まえた防災対策を情報提供していく。また、町内会や自主防災会と協働し、地区の避難路に関連付けた津波浸水表示板の設置に係るワーキンググループを実施しており、今後まちづくり事業と一体となった津波避難誘導の効率化や津波啓発効果が期待される。



図 5-12 仙台市若林区藤田町内会とのワーキンググループ実施状況



図 5-13 セヶ浜町及びセヶ浜町沿岸7自主防災会とのワーキンググループ実施状況

4. 伝承サポーター制度

「3.11 伝承・減災プロジェクト」に賛同し、伝承・減災を後押しして頂ける方々を広く募集し「伝承サポーター」として認定している。認定式は、毎年5月の津波防災シンポジウムの中で執り行われ、宮城県知事による「認定書」を交付させていただき、伝承・減災に関するサポーター活動を講え、敬意を表している。

平成28年度は、七ヶ浜町の自主防災会と七ヶ浜町及び宮城県の三者による「津波浸水表示板設置に係る検討会」を実施するなど、官民協働の取組も行っており、平成28年度までに津波浸水表示板を設置して頂いた個人を含む団体数は104団体となっている。

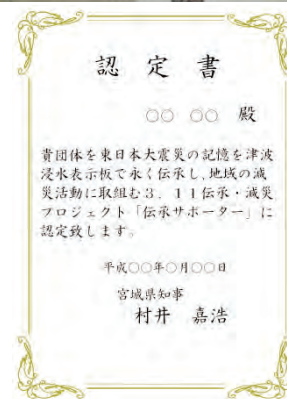


図 5-14 伝承サポーター

(左：認定式実施状況，右上：津波浸水表示板設置状況，右下：認定証の例)

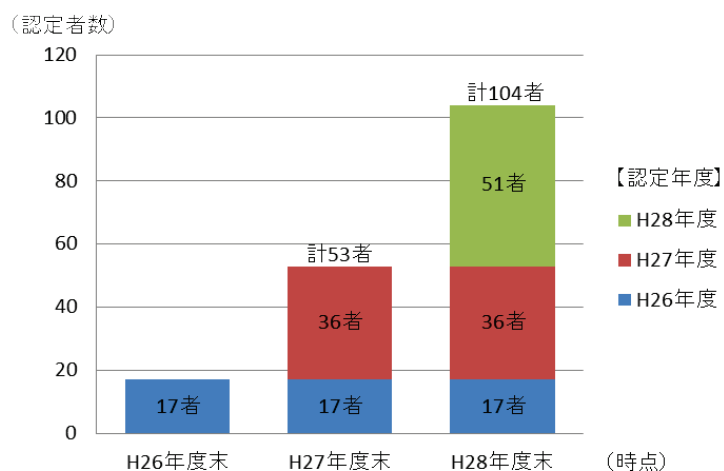


図 5-15 伝承サポーター認定者数

災害に強いまちづくり 宮城モデルの構築

～ 東日本大震災からの創造的復興 ～

概要版

平成29年3月

編集：宮城県土木部土木総務課

〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3丁目8-1

TEL:022-211-3108

FAX:022-211-3199

Email:dobokgk1@pref.miyagi.lg.jp

